

第12回 補語

教科書の該当ページ：100 ページ、110～111 ページ

補語の格表示 → 教科書第10課③、第11課③

第3回で、「AはBだ／どんなだ」は「主語(A)+動詞+補語」になり、主語Aだけでなく補語も主格で表示されると学びました。しかし、補語が主格以外の格で表示される場合もあります。まず、主語Aが複数の場合、補語は複数分格形で表示されます。

例) 彼は学生です。 Hän(単数主格) on opiskelija(名詞・単数主格).
彼らは学生です。 He(複数主格) ovat opiskelijoita(名詞・複数分格).
彼はおしゃべりだ。 Hän(単数主格) on puhelias(形容詞・単数主格).
彼らはおしゃべりだ。 He(複数主格) ovat puheliaita(形容詞・複数分格).

また、主語Aが不可算名詞の場合、補語は単数分格形で表示されます。

例) コーヒーは熱い。 Kahvi(単数主格) on kuuma(形容詞・単数分格).

「これは～だ／どんなだ」で「これ」が不可算名詞を指している場合、補語は単数分格形になります。

例) これはコーヒーカップです。 Tämä(単数主格) on kahvikuppi(名詞・単数主格).
これはコーヒーです。 Tämä(単数主格) on kahvia(名詞・単数分格).

「これは何ですか／どんなですか」と尋ねるときも、「これ」が不可算名詞を指しているときは、「何」「どんな」が単数分格形になります。

例) これは何ですか。 Mikä(単数主格) tämä(可算名詞・単数主格) on?
これは何ですか。 Mitä(単数分格) tämä(不可算名詞・単数主格) on?
これはどんなですか。 Millainen(単数主格) tämä(可算名詞・単数主格) on?
これはどんなですか。 Millaista(単数分格) tämä(不可算名詞・単数主格) on?

主語が単数でなく複数のときは、「何」「どんな」が複数分格形になります。ただし、「何」の複数分格形は単数分格形と同じ形です。

例) これらは何ですか。 Mitä(複数分格) nämä(可算名詞・複数主格) ovat?
これらはどんなですか。 Millaisia(複数分格) nämä(可算名詞・複数主格) ovat?

いずれの場合も、主語は主格で表示されます。また、否定文になっても、主語が可算名詞の単数を表わしている場合は、補語の格表示は単数主格のまま、分格と交替することはありません。

例) 彼は学生ではありません。 Hän ei ole opiskelija(単数主格).
×Hän ei ole opiskelijaa(単数分格).